

「動物実験は許されるか？」

2017年1月18日(土)

カフェミヤマ渋谷公園通り店 第1会議室

参加：14名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加者2名を含む総勢14名で、主に動物実験を判断する際の基準や原理は何かについて考え、対話をした。

2. 対話：

(0) 対話前の参加者の判断

- 進行役から冒頭「動物実験が許されると思うか否か？」について参加者全員に挙手により意見を聞いた：

- ・賛成：6名、反対：1名、保留（＝分らない）：3名

(1) 各派の理由

a) 賛成

- ・善悪の間の線引きは個々人で異なる。自分は推奨しないが、実行している人を止めることはできない。
- ・動物は、人間と違ってその行為の意味を分かっていない。

b) 反対

- ・動物がかわいそうに見える。動物実験を行わないことによる弊害（＝マイナス）はないと思え、また、動物実験により得られる人間への便益は他の代替手段によっても達成できる。

c) 保留

- ・動物がかわいそうだが、助かる人命があれば仕方がない。
- ・犠牲がある＝ダメとはならない。基本的に人間にはやってはいけないことはない。
- ・動物実験は、動物を食べる（＝肉食）・食べない（＝菜食）につながっているのではないか。
- ・ずっと考えているが、判断するための基準や原理が思い当たらない。

(2) 動物にまで拡張した平等から天秤原理へ

- ・対象全てを平等に扱うべきとする考え方があり、動物にまで拡張して動物・人間を全て平等に扱うべきとする考え方がある。（蟻等の昆虫はよく分からないが）動物一匹にでも自然の権利があるので、人一人と平等であり、殺したり危険に晒したりしてはならないとする考えもある（人間動物完全平等主義）。
- ・動物実験に当てはめると、動物実験により動物が被るマイナス分（＝苦痛・犠牲）と得られる人間へのプラス分（＝受益）を比較してプラス分が大きいなら、やって良いと判断できる（天秤原理＝功利主義）。

(3) 思考実験

- ・例1：（行おうとしている動物実験に対して）ゴジラのように苦痛を感じないような巨大で強靱な動物であれば、その動物実験は許されるのか。例2：そもそもどんな動物実験も許されないのか。

(4) 望み（希望）の大きさ

- ・何らかの手段によって動物の意思を確認し、その動物が被る苦痛の量を推し量って、動物のマイナスと人間のプラスを比較考量して、許すという考えもある。
- その方法だと、マイナス分を推し量れなくても望みの総量としては人間の受益があるため、（マイナス分を推し量れない）植物人間に対してもその考えを適用しても良いということになってしまう。
- いずれにしても、まだ苦痛の総量を測り、幸福の総量を上げることが善いとする枠組みの中にいるように思う。もっと他に原理はないのか。

(5) 実験者の主観

- ・動物の苦痛は、人間にはよく分からないので、基準にはならない。（動物実験における対象動物を見て）見る人間（＝実験者）の主観（＝快・不快）で判断する原理はどうか。
- 100名の人命を救う目的であっても、一人の実験者の主観における快・不快が基準になってしまう。
- 頭で考えるような価値観や思考というものより、直観や感覚によって判断するという方が納得できる。
- 何かを正義であるとするような思考方法やイデオロギー等は時と共に変わってしまう。
- ・（対象動物を見て）かわいそうという感情もあやふやで判断がゆらぐのではないか。対象動物が仮に犬猫であった場合に、犬好き猫嫌いな実験者Aと猫好き犬嫌いな実験者Bとの間で、実験それぞれに対する直観・感覚が異なることになり、判断が分かれてしまうことになる。
- ・主観における快・不快という極めて恣意的と解釈されるが、良し悪しの判断ということではどうか。

(6) 動物の感情・苦痛の人間による推量

- ・対象動物が動物実験において殺されるか殺されようとする、その動物の感情や苦痛を想像した結果、我が身のように「自分も殺される」と思う。だから、動物実験は許されない。
- 動物の苦痛は、人間には推し量ることはできない。
- 厳密にはそうかもしれないが、そうであれば、人間である他者の苦痛も推し量ることはできない。

(7) 実験者の声

- ・実験者は行う動物実験について、常に良し悪しを考えたり判断したりはしない。研究主導者（＝教授・プロジェクト長）の指示に従い、動物への頸椎脱臼や持続伸長の行為もいずれ作業化し、慣れてしまう。
- ・（色々な実験者がいるはずだが）自分は基本的にその動物が好きなので、動物実験の対象としている。この場合、（頸椎脱臼や持続伸長等の行為の）慣れとは矛盾しない。動物実験により分かることが多いため、真理追求（＝プラス分）と動物が被る苦痛（＝マイナス分）を天秤で測り、真理追求が勝る。

(8) 思考実験（再び）

- ・例3：例1と同様に、動物実験によってその動物が元に戻る（回復可能）なら許されるのではないか。
- 例4：ハツカネズミ一匹を種として考え、元に戻ると考えられるか。ある動物の細胞一つならどうか。

(9) 対話後の参加者の判断

- 対話後に再度「動物実験が許されると思うか否か？」について参加者全員に挙手により意見を聞いた：
- ・賛成：6名、反対：3名、保留（＝分らない）：4名（途中参加の方がいたので冒頭から+3名）

3. まとめ：

- ・①功利主義的な考え（天秤原理）、②動物一匹にも自然権を認めて人間と同様に平等に扱う考え、③実験者主観に基づくべきとする考え、④動物・人間の望みの大きさを判断する考え、まで幅広い考えが出た。
- ・対話中に出た興味深い思考実験を時間切れで対話できなかったもので、次の機会に採り上げ考えを深めてみたい。